

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 西原 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 49 人

② 算数 49 人

5 留意事項

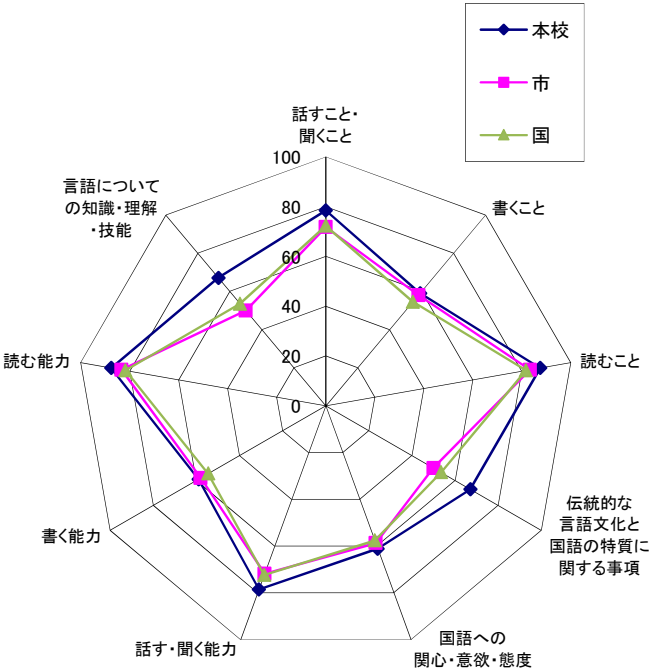
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.5	71.8	72.3
	書くこと	59.0	58.0	54.5
	読むこと	87.5	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.1	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	61.1	58.7	57.6
	話す・聞く能力	78.5	71.8	72.3
	書く能力	59.0	58.0	54.5
	読む能力	87.5	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	67.1	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

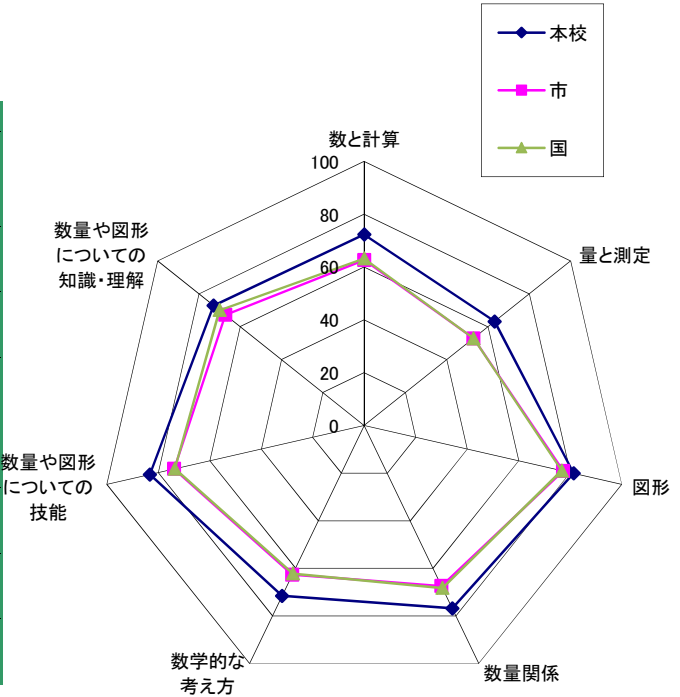
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は全国平均より高い。 ○全ての設問の平均正答率が全国平均より高い。 話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりして必要な情報を得ることが出来ていた。 ●自分の考えをまとめる問題では、平均正答率は全国よりも高く、無回答率も全国より低かったが、字数や言葉遣いなどの条件を満たして文章でまとめることが出来ていない回答の割合が全国よりやや高かった。	・自分の考えをまとめる活動を行う際に、参考資料から言葉や文を引用したり、資料を読んで自分が感じたことを書き表したりする方法を確認する。 ・自分の考えを話したり友達の話の聞いたりする学習を行う際や、校外学習・地域の先生の話の聞く際には、事前に相手の話を聞く目的を明確にもたせるようにする。話を聞くときには、目的に応じて一番聞きたいことを中心に自分の考えをまとめるように指導する。
書くこと	平均正答率は全国平均より高い。 ○全ての設問の平均正答率が全国平均を上回っている。特に、文章の書き方の工夫について答える問題は正答率が高かった。 ●3つの条件に合わせて文章から分かったことをまとめて書く設問の正答率は全国平均より高かったが、他の設問より平均正答率が低く、課題があった。	・参考資料から言葉を抜き出して、意見文を書く機会を授業や宿題の中に設ける。 ・決められた字数で書けるよう、要約する練習を行う。合わせて、要点が文章のどの部分なのか、またそう判断する根拠も明らかにするように指導する。 ・ふだんのテストの振り返りの際、文章で答える問題については何について書くことが求められているのかを確認するよう助言する。
読むこと	平均正答率は全国平均より高い。 ○全ての設問の平均正答率が全国平均より高い。 目的に応じて本や文章を選び内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読むことが出来ていた。 ●本や図鑑を使って調べたい時に目次や索引を活用する問題では、平均正答率は全国よりも高かったが、無回答率が全国平均より高く、課題があった。	・多くの教科で本や図鑑を使って調べる学習を行っているが、自らの課題を解決するための必要な情報を探す際、目次や索引を利用することについても適宜指導していくようにする。 ・出題の方法によって問題の内容を理解することにやや抵抗がある児童もいる。各教科において活用問題に取り組む際には、問題の内容や解決の見通しをもたせてから問題に取り組ませたり、必要に応じて個別に助言しながら問題の内容を理解させたりして、最後まで粘り強く課題解決に取り組んでいけるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国や県の平均を上回っている。 ○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることや文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことについての設問の平均正答率は、全国平均より高かった。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問については、同音異義語に注意して漢字を文の中で正しく使うことに課題があった。	・文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導していく。また、間違いやすい同音異義語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことが出来るように指導していく。

宇都宮市立西原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	72.3	62.7	63.2
	量と測定	63.2	52.9	52.9
	図形	81.3	77.3	76.7
	数量関係	76.8	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	71.6	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	83.3	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	72.9	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、全国や県の平均を上回っている。 ○乗数や除数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の計算を正確に行うことが出来ている。 ○示された場面において複数の数量から必要な数量を選び立式することが出来ている。	・計算の意味や計算の仕方を図や数直線などを用いて関連付けながら考察し説明できるように授業を行う。また、朝の学習の時間や家庭学習において計算問題を繰り返し解かせ、習熟を図っていく。 ・問題の中から必要な情報を収集した上で条件に合うものを選択したり問題場面に適用できるかを考察し判断したりすることができるように、解決した後に使った式を問題場面に戻って振り返る場を設定することも児童の状況に応じて取り入れながら授業を行っていく。
量と測定	平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。 ○どの設問も全国の平均正答率を上回る結果となっており、無回答の割合は、0%であった。 ●場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述すること、二つの量を使って単位量当たりの大きさを求めることについての問題では、全国平均よりは高かったが、他の問題に比べ平均正答率が低かった。	・自分の考えをノートに書きまとめたり、考え方を比較・検討する話し合いを授業で行ったりしていることがよい結果につながったと考えられる。引き続きこれまで行ってきた学習指導を継続していく。 ・単位量当たりの大きさについては、図を利用して視覚的に場面を捉えさせるなど、場面の理解と数量関係の把握に重点において指導に当たっていく。
図形	平均正答率は、全国や県の平均を上回っている。 ○基本的な平面図形について、よく理解している。 ○対辺が平行であるなどの図形の性質や、図形の構成要素である辺や角の大きさなどに着目して図形を捉えたり、合成や分解など図形の構成についての見方を働かせたりすることができている。	・今後も、基本の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することが出来るかどうかを操作活動などによって確かめる時間を授業の中に意図的に設ける。
数量関係	平均正答率は、全国平均より高い。 ○棒グラフの基本的な読み取りや、目的に適した伴って変わる二つの数量を見出す問題は、よく理解している。 ●二つの棒グラフから一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できるかを問う問題では、全国平均より高かったが、他の問題と比べると正答率が低かった。	・引き続き、朝の学習や宿題などで、基礎基本の定着に向けた学習を行っていく。 ・授業の中で、グラフから資料の特徴や傾向を読み取る学習を行う際に、グラフから分かることを伝え合う時間を十分にとる。また、そのことについて話し合う場面ではグラフのどの部分に着目して読み取ったのかについても説明することが出来るよう指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問について肯定的回答の割合が国や県と比べて高かった。本校では、毎日帰りの会で「元気・がんばり・思いやりタイム」という自分や友達の頑張りを発表する活動や、毎時間の授業での振り返り活動など、児童が相互に良さを認め合ったり児童の内面の頑張りが成長を教師が認めたり励ましたりする活動を行っている成果だと考えられる。今後も、自己肯定感や自己有用感を育み、周りと協調しながら努力していくことが出来るよう支援していく。

●「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問について、肯定的回答の割合が国や県よりも低かった。授業中や学級活動、児童会活動などで積極性も見られるが、失敗を恐れて良いと思っても実行していないことがあることも伺える。頑張った結果だけでなく、提案したことやその過程自体を認め価値付けることで、積極的に挑戦する児童を育成していく。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学級活動における話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。」の質問について肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。互いを認め合い、児童相互の温かい人間関係が育ち、一人ひとりのよさや違いを尊重し合える学級集団であることが伺える。今後も児童が、安心感のある学級集団において意欲的に学校生活を送ることが出来るよう支援していく。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問について肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。昨年度、学校課題として、「響き合う学校づくり」をテーマとして道徳教育について研究してきた成果が反映していると思われる。今後も、児童が自分との関わりから主体的に道徳的価値について考え、ペアやグループなどの話し合いの場において多様な考え方に接することが出来るよう支援していく。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の質問について肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。児童が進んで学習に取り組む、発表や話し合いの場において、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようと工夫している様子が伺える。今後も、考える時間を十分に設け、児童相互の対話を大切にした授業を展開していく。

○「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問について肯定的回答の割合は県や国と比べて高かった。学習の流れをよく理解し、国語への学習意欲が高いと伺える。ふだんの授業で行っている問題解決的な学習を今後も継続して行っていく。

●「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」の質問について、肯定的回答の割合が国や県よりも低かった。伝えたいことがあっても、目的にあった資料を活用したり、根拠を挙げて説明したりすることに苦手意識をもつ児童がいることが伺える。文章の中の事実と意見、感想を区別して読む活動や、根拠を明確にして書いたり話したりする活動を多く取り入れた授業を展開していく。

宇都宮市立西原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着、 児童の実態に応じたきめ細かな指導	西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう全教職員で共通理解を図ってきた。	国語・算数の基礎・基本の平均正答率は、国の平均と比べ高かった。
体験活動や課題解決的な学習の展開、 思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫・改善	言語活動の充実、学び合いの場の設定、ノートや板書の工夫、振り返り活動の充実を行い、児童が学びを実感できる授業を目指してきた。	児童質問紙から、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」等の質問について、肯定的回答の割合が国と比べて高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
児童質問紙では、「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」の質問の肯定的回答の割合が国と比べ低かった。 また、全員の児童が、国語・算数の全ての書く問題について最後まで解答を書こうと努力したと回答していたが、無回答率が国より高い問題がそれぞれ1問ずつあった。	体験活動や課題解決的な学習の展開、 思考力・判断力・表現力を育てる指導の充実	授業の中で、自分の考えや授業で学んだことをノートに書く時間を十分に取っていく。全ての教科において振り返り活動を充実させる。また、お互いの考えを話し合う場面では、よいと思った友達の考えもノートに書き加えるよう指導していく。児童の考えを深めるための発問については、「思考のすべ」について校内研修で共通理解を図り、思考力・判断力・表現力を育てる指導の充実を目指していく。